



ACP コミュニケーション 相手に通じる言葉と態度,思考に沿ったステップで

近頃よく ACP という言葉が飛び交います。アドバンス・ケア・プランニング, 直訳すれば「事前ケア計画」。人生最後の日々のケアやケアについて, 患者さんやご家族とあらかじめ話し合っただけで希望を確かめ心づもりすることです。

話しづらい状況での ACP での言葉かけや態度について, 近代ホスピスをリードした英国の専門看護師の知恵を紹介します。ロンドンのセント・ジョセフ・ホスピスで教育担当だったデービスさんと, ロンドン北部地域の地域緩和ケアチームのインタビューからまとめました。

*

何のために患者さんや家族と話し合うのでしょうか。「ご本人が何をしたいかをオープンに話し合い, 病状をコントロールして, 多少でも元気な状態で過ごせるよう計画する」ため。これをいつも意識して思考のステップを丁寧にたどりながら話を徐々に進めます。

- ① まずは「病気について, 今, どんな風に知っていますか?」と始める。
- ② 次に「何を知りたいですか?」と話を進める。
- ③ 少しずつ「今後の見通し」について話しますが, そのとき「厳しい事実と希望のバランス」が大切。励まそうとして「嘘の希望」を言うのは禁物。「どんなシビアな状況でも, ほのかでも希望はあることを, 必ず加える」ことを忘れないで。
- ④ 「何をしたいですか?」と語ってもらい, “その人が実現できること” を一緒に探していく。

早口や回りくどい話し方はわかりにくいので, 言葉ははっきり「簡潔なメッセージ」で。時々話を止めて一息置き「このことを知って驚きましたか。話を進めていいですか」など相手がどう感じているか, 心の状態の反応を確かめることも重要です。

その場にいる他の人に気を遣って話しにくそうな

様子なら, さりげなく話題を変えてその場は終わらせ, 後で2人だけの場をつくり「何か話したいことはありますか?」と話を続けるのです。

「これまでの人生で大事なことを1人で決めてきましたか?」も確認ポイント。1人で決めてきたなら本人との話し合いで決められますが, 相談すべき人がいるならその人の存在を前提に。

*

言葉だけでなく, 接し方や態度など非言語的コミュニケーションによって, 患者さんやご家族は「この人は本気で聴いてくれる」と理解し, 本音で希望を言える雰囲気になります。そのためには相手への敬意を込めて, 私がこの人だったらどう感じるか, また自分の家族だったらどうするだろうと自問しつつ, 本人と一緒に考える態度です。

発声も意外に大事です。相手が心の落ち着きを取り戻せるような, 朗らかだけど落ち着いた明瞭な発音で(喉からではなく, お腹から出す声で)。また, 丁寧な言葉遣い, 親しげな感じ

など, その人の普段の言葉遣いに合わせます。

*

人生の時間が限られた時にどこで誰とどう過ごしたいかや, 財産や大事なものの扱いなど, その人がそのとき話したいことをまるごと聞く中で, ACP も自ずと見えてくるのでしょうか。

ただ「ACP」という専門用語を使うと, 患者さんやご家族になじみがなくて話が始まらないことも予想されます。話し合うにはとにかく相手に通じる言葉でなければ。「ご飯が食べられなくなったらどうしますか」などという問いかけ方もありますよ。

むらかみきみこ◎ターミナルケア・医療安全・在宅ケアのテーマで, 国内各地, 海外10か国を継続取材。主な著書に『患者の目線—医療関係者が患者・家族になってわかったこと』(医学書院), 岩波新書『納得の老後—日欧在宅ケア探訪』。

永源寺の
地域まるごとケア

花戸貴司 著
國森康弘 著



琵琶湖のそばの ACP の問いかけは「ご飯が食べられなくなったらどうしますか」。花戸貴司ほか著『永源寺の地域まるごとケア』(農文協)より。

「ご飯が食べられなくなったらどうしますか?」